

1学期の生徒指導に関するチェックシート

西部教育事務所

西部教育事務所では、今年度、「認め合い、支え合い、高め合う心を育む生徒指導の充実」をお願いしています。1学期の、自校のいじめや不登校の未然防止に向けた取組や、認め合う活動や支え合う場面を意識した授業づくり・学級経営などについて振り返り、2学期に向けて、教職員一人一人が取り組むべきこと、学年、学校全体で準備しておくべきことについて確認しておきましょう。



A：十分できている B：おおむねできている C：改善が必要である

項目	No	内 容	評 価 (○を付ける)
授業・学級経営	1	生徒指導の3つの機能（自己決定、共感的人間関係、自己存在感）を生かした授業や学級経営を実践している。	A・B・C
	2	教師と児童生徒、児童生徒同士の信頼関係を基に、互いのよさや違いを認め合う場を意図的に設定し、所属感や連帯感をもてるような学級集団づくりを進めている。	A・B・C
	3	輪番制の計画委員会を中心とした学級活動や、児童生徒の自発的、自治的な活動を取り入れた特別活動を展開している。	A・B・C
	4	学級の実態を踏まえ、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、児童生徒の望ましい人間関係づくりを進めている。	A・B・C
	5	悩みを抱えた時、児童生徒自身がどのように行動すれば良いのか考える場面や助けを求める大切さについて考える場面を設けている。	A・B・C
	6	学習ルールや集団生活のマナーの大切さについて、児童生徒とともに考える場面を設けている。	A・B・C
組織的な支援体制	7	学校で目指す児童生徒の具体的な姿や生徒指導の重点、生活のきまりなどについて全職員で共通理解している。	A・B・C
	8	「学校評価アンケート」や「生活アンケート」、「日常的な観察」で把握した児童生徒の実態を全職員で共通理解している。	A・B・C
	9	いじめ、不登校、問題行動等に対し、全職員の共通理解のもと、役割を分担し、組織的・継続的な指導をしている。	A・B・C
	10	児童生徒の実態に応じて、保護者やSC、SSW、関係機関（適応指導教室、児童相談所、民生委員等）と連携を取り合って支援している。	A・B・C
	11	生徒指導関係の研修や通知・配付資料等を生かして、学校全体の生徒指導力の向上に努めている。	A・B・C
いじめ	12	いじめの定義についてや重大事態に対する対応についてなど、自校の学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、その方針に沿って生徒指導を行っている。	A・B・C
	13	法律上のいじめの定義を確認し、いじめの芽や兆候についても認知し、適切な対応を行っている。	A・B・C
	14	いじめについて学級で考える機会を設定するなど、いじめは絶対に許さないという学年・学級の気運の醸成に努めている。	A・B・C
不登校	15	不登校児童生徒の一人一人の状態や環境にあった適切なアセスメントやプランニングを行っている。	A・B・C
	16	休み始めに電話連絡や家庭訪問を行ったり、校内に相談しやすい居場所を設けたりするなど、登校しやすい環境作りに努めている。	A・B・C
問題行動	17	インターネット端末の正しい使い方について、家庭と連携を図りながら計画的な指導を行っている。	A・B・C
	18	万引・喫煙・暴力行為・器物損壊等を未然に防ぐための指導や支援を行っている。	A・B・C